



ひとみすこやか



とだ眼科通信 vol 3 2012 3

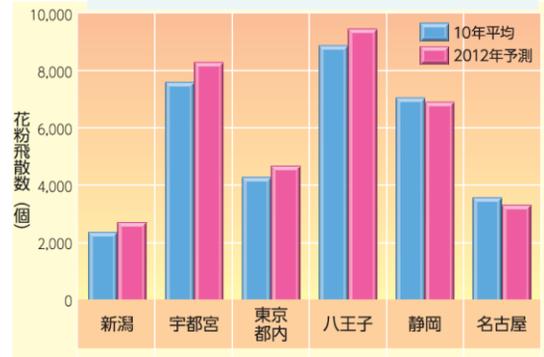
今年もかゆ～い季節が来ました！

今年の冬は本当に寒かったですね、もう3月なのに未だコートとマフラーが手放せません。でも、もう春は近くまでやって来ています。2月の中旬よりスギ花粉が飛び始め、敏感な方はもう症状が出始めているようです。今回のひとみすこやかでは、今年の花粉症の傾向と対策、最近の問題点、新しい検査などについて特集します。

2012年のスギ飛散予測は？

日本気象協会やNPO花粉情報協会の発表によると、昨年の大飛散に比べると約 1/3 と少ないようです。ただし、過去10年の平均と比べると、ほぼ例年並みに飛散すると予測されています。この量はスギ花粉症の方が重症化する飛散量を超えています！

各都市における過去10年間の平均と今年の予想量との比較



* NPO花粉気象協会より

“セシウム花粉”飛散は問題なし？

昨年3月の東日本大震災からもうすぐ1年が経過します。復興にはまだまだ時間がかかり、日本人の団結力が問われています。震災に伴う福島第一原子力発電所の事故は、放射能に対する恐怖を引き起こしました。その中で、来春飛散のスギ花粉に放射性物質のセシウムなどが含まれている可能性があることが、一部メディアで報道されました。気象業務支援センターは昨年12月に開かれたメディア向けのセミナー(主催=NPO花粉情報協会)で、放射性物質を含む花粉について解説。シーズン中に暴露される放射線量は最大でも1マイクロシーベルトに達することはないと予測し、「健康に全く問題ないと言える」と述べました。林野庁、農林水産省は実際に花粉に含まれるセシウム量の計測を始めており、近日中に発表される予定です。



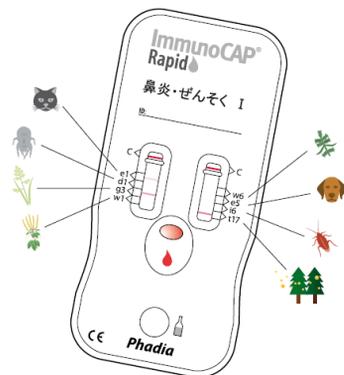
心配な話題はこのへんで終えて
最近の話題に移りましょう

花粉症の低年齢化に注意

鼻アレルギーガイドラインでは最近10年のスギ花粉症有病率を比較すると、ほとんどの年齢層で増加しており、5～9歳では7.5%から13.7%とほぼ倍増しています。また、東京都の調査でもスギ花粉症有病率は0～14歳の年齢区分で大きく増加しています。お子様の咳や鼻づまりによるいびき、鼻をすする、目鼻をこする、まばたきの増加、口呼吸は花粉症によるしぐさの可能性があるので注意しましょう。

あなたは本当に花粉症？

眼科や耳鼻科で診察する際は、アレルギー性炎症を認めるだけで花粉症に特有な所見はありません。春に生じるため「花粉症、だろう・・・」と判断しているわけです。実際の確定診断には血液を用いたアレルゲン検査が有効です。通常は採血して数日結果を待たねばなりませんでした。最近当日に結果がわかる迅速判定キットが登場しました。スギ、ヒノキなどの花粉をはじめハウスダスト、ダニなどの通年性アレルギーの原因物質における感受性まで判ります。是非ご活用ください。



少量の血液で20分後に
結果が判ります！

花粉症患者に朗報？

現在、林野庁が中心になって花粉の飛ばないスギの木が研究されています。既にスギの苗やさし木の開発に成功しており、数年後には各地の森での植林が始まる予定です。ですので、今から数十年後にはスギ花粉の飛散量は減少するといわれています。でも、このスギの木が森が完成する頃は…。私たちに間は合うのでしょうか？

第3号は花粉症について、最近の話題と新しい検査について触れました。お役に立てば光栄です。次回のひとみずこやかもお楽しみに



診療時間

月～金

午前 9:00～13:00

午後 14:30～18:00

土

午後 14:00～18:00

バリアフリー
駐車場8台分



とだ眼科

☎ 048 (442) 2620

www.toda-g.com

携帯サイト用
QRコード

